

『おとめ在月での啓発活動～2011～』

1. 目 的

ファッションとスイーツのイベント「おとめ在月」には約5,000人が来場する。特に若い女性が多く来場される。そこで子宮頸がん予防啓発活動を行い、正しい知識の普及と検診受診促進を目指す。また、りびえーる記事掲載により継続的な啓発を行う。

2. 主 催

山陰中央新報社

3. 日 時

2011年11月19日(土) 10:00～18:00

4. 場 所

松江イングリッシュガーデン

5. 参 加 人 数

学生 15名、実行委員 4名、細胞検査士会 3名

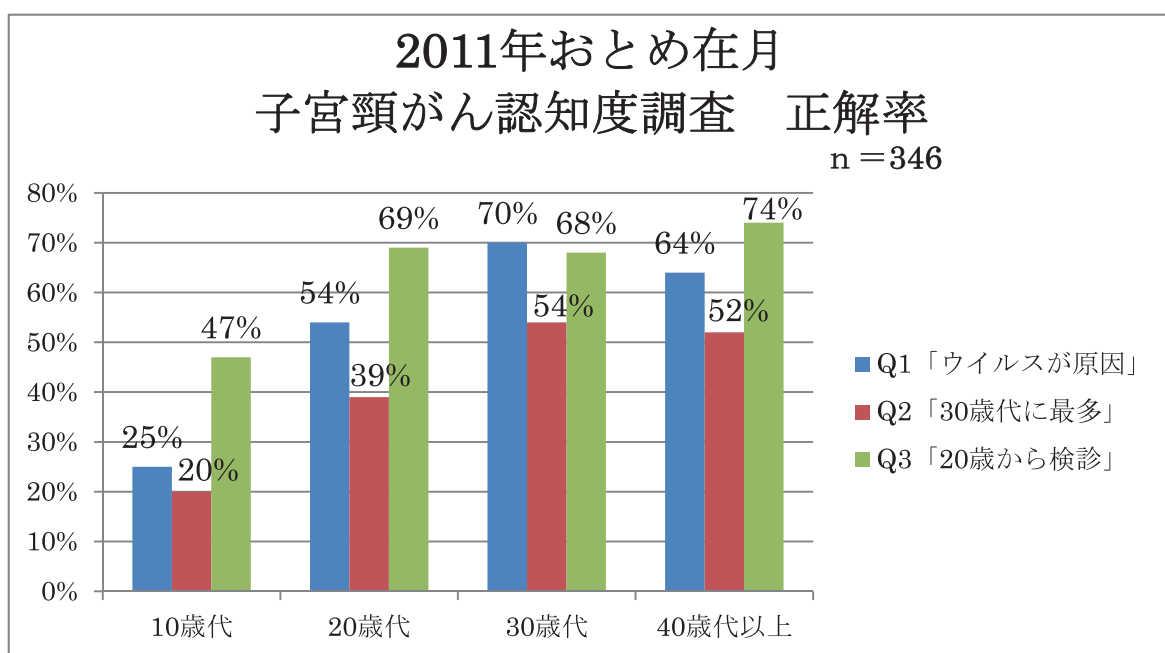
6. 内 容

ブース出展(手作りパンフレット配布、アンケート実施)

7. ま と め

啓発チラシやニュースレターの配布を約1000部、ボードアンケートを346名に実施した。10歳代での認知度は総じて低かった。20歳代でQ3「20歳から検診」と知っている方が69%いたのは意外であった。全年齢を通じて「30歳代に最も多いがん」との認知度は低かった。

多くの方が目的とするブースに直行されるため、立ち止まってブースに来てもらうことは難しかった。今後はどうやって若い女性に関心をもって聞いてもらうかが検討課題となった。



【イベントの様子】



(手作りチラシの配布)



(子宮頸がんについてのアンケート)



(視触診モデルの体験)



(たばこについてのアンケート)

『学習会でラベルワークを行いました』

1 班

日時：2011年12月21日18：00～20：00
 場所：出雲ふぁっと
 参加人数：学生 6名、実行委員 5名
 学習会：自分たちがやりたいことは何だろう！

子宮頸がんについて自分の体について欲しい

中高生に「子宮頸がんは若くてもなること」を知ってほしい	小・中学生の母親世代への啓発(ワクチンの大切さ)
高校生が自分の体のことを考えるきっかけを作りたい	若い人達に自分の体について健康について興味を持ってほしい

松江・出雲で情報交換を取り合えるようにする！

定期的集まって情報交換をしたい	松江一出雲の連絡の取り方、会議の報告をし合う
月に一回でも松江出雲のどちらかに集まり情報交換は行っていった方がよいと思います	それぞれが連携を取り合せて、それぞれの良さを活かしながら活動がしたい

今後の方針を決めてそれに合った啓発をする

月や年単位の目標をつくる。活動方針みたいな.. 反省・フィードバックの方法も考える	方針やコンセプト？などしっかり決めたい
--	---------------------

知識の共有・充実

メンバーが共通の知識を持っている。	行った行事などは記録に残し、同じ失敗は繰り返さないように改善策を考え実行していく
新しく入る人、啓発するための知識を身につける。ちらし、ピラ、冊子作り、研修会を行う	学校での啓発の準備をしながら、疑問に思ったことや分からないことなどを学習していく

気軽に参加できる活動にし、島根県内全体に仲間を増やしていく。

松江側の人集め、ポスターを作る。4月の新動を狙う	もっと気軽に参加できるなら、人を呼びやすい
島根県内の学校に呼びかける(松江、出雲だけでなく県内へと広げたい)	

若い人に楽しく知ってもらおう！

目標！

検診に行く事への抵抗感が少なくなるといい！！	検診に行くことが美容院に行く事くらい当たり前になってほしい。
松江の人達と協力する事で広い範囲(地域)の人達に頸がんについて啓発して島根の検診率が上がってほしい！！	検診へ行く事への抵抗をなくし島根県の検診率を上げる。

学校へ行こう！！

学校やイベントなどで啓発していきたい。	様々な学校やイベントでの啓発で検診の大切さを知ってもらいたい。	県内の中学校への啓発(出雲、松江だけでなく、遠くの中学にも)
中学校などへ行ってクイズなどやりたい。	中学校へ行った時、体育館または教室で頸がんワクチンについての〇×ゲームを行う。	

楽しく学内や地域に広める!!

印象に残る楽しい事をしたい。(啓発のやり方)	いなたひめプロジェクトについて学内や地域から広げていく。
中学生にも分かりやすいような見やすくかわいいちらしを作って学校で配る。(高校、大学なども)	子宮頸がん検診啓発の手作りポスターを作成して学校や目につくところに貼りたい。



自分が成長し、
皆に知識を広める

知識を身につけたい

あいまいではなく正しい知識をもって啓発活動に参加していく。知識を獲得していく。

子宮頸がんの啓発をするにあたり、どう引き込んでいくか説明の仕方などにメンバー内でバラつきがないように合同勉強会を行っていききたい。

場面、年代に合った説明の仕方を学び、実践したい。

知識の差をなくすために専門の方の話を聞くなどの勉強をしたい。

子宮頸がんについての勉強。とりあえず知識が少ないので色々知りたい。

分担の活動をやっていく中で、子宮頸がんの勉強をきちんとやって正しい知識を広めていきたい。

チームワークの向上

正しい知識を身に付けてメンバー同士で協力して啓発をしていきたい。

分らないことをそのままにしないで、メンバーの中で協力して助け合いながら活動していきたい。

県大と島大で定期的に共通の話し合い、活動、勉強の場を持つことで分担しながらも、一体となった活動をした。

子宮頸がんの啓発でどんなことを伝えるのかや進め方など、皆で共通させたい。

目標と振り返り

一回一回の啓発に目標を持ってやっていきたい。

何事にも目的を持って行い、振り返りながら行っていきたい。

命を大切にしたい
と伝えたい

身近な人に自分の命を大切にしたいと伝えたい。

活動の場を広げたい

一人でも多くの人に子宮頸がんのことを知ってほしいから活動の場を広げていきたい。

ワクチンをもっと広めたい

健康教育(助産師など)を行っていききたい(性教育)

様々な年代の様々なポジションの人が集まって活動出来たら良いと思う。

対象を絞って啓発したい

中・高生へワクチンの事に関する啓発活動をやっていききたい。

ワクチンの対象年齢の人達に、ワクチンの大切さを伝えられるようになりたい。

活動するメンバーを増やしたい

ポスターや勧誘などを通じて、知識を広めると同時に、人も集めて後継者を育てていきたい。

学生に声をかけ興味のある人はぜひ参加してほしい。

啓発活動の持続

若い世代から子宮頸がんはワクチン+検診で予防できると伝えていきたい。

やるからには、最後まできちんとやる!! 沢山の人が子宮頸がんを知ってもらえるよう努力する。

予防(ワクチン・検診)についての値段とか場所、割引の情報もどんどん知らせていきたい。

がん検診受診UPの啓発を続けたい。

啓発の方法

人が沢山集まっている場所でスライドなどを使った発表等・・・

目標: 病気に対する知識も大切だけど、それに加えて人とのコミュニケーションの有効な取り方をして、その人個人にあった説明をしている。

学生として、新しい視点で資料作りや啓発をしていきたい。

アンケートや写真などをとって、軌跡が見られるように。短期間のものじゃなくて、長期間(1年)を通して松江・出雲共通で何か行う。

花が咲くとは？

- ・検診率UP
- ・自分たちの知識・スキル向上

◎まずは自分たちの知技のレベルアップが大切
コミュニケーション能力 メンバー間で助け合う

相手に合わせて対応できる



『島根大学附属中学校性教育』

～子宮頸がんクイズ～

1. 目的

現在 20～40 代の女性に最も多いといわれる子宮頸がん、10 代から検診の大切さなどを伝える為に直接学校へ出向き、クイズ形式で男女に知ってもらう。

2. 日時

2012 年 3 月 5 日(月) 13:35～14:25

3. 場所

島根大学附属中学校 体育館

4. 参加人数

学生 4 名、実行委員 2 名、附属中 1 年生 160 人

5. 内容

附属中学に出向き、子宮頸がんクイズを行った。

6. まとめ

- ・ワクチンの効きがどのくらいなのか流して聴いているのではないかと思った。
- ・大きい声で話す。解説が聞こえない。A,B に分けられると騒がしくなる。
- ・周りの人を大切にしてほしいということを伝えることができたのではないか。
- ・パワーポイントの色は良かった。
- ・的確な指示があったほうが良かった。
- ・段取りをきちんとふむ。初めと終わりをしっかり。
- ・初めと終わりのあいさつをしっかりする。

中学 1 年生に対し子宮頸がんに関する授業の一環としてクイズをすることで、分かりやすく伝える難しさ、大切さを知ることができ今後の参考になった。



(体育館での様子)



(司会進行)